

経済・金融
フラッシュ雇用関連統計 25 年 1 月－女性を中心に
労働市場への参入が進む

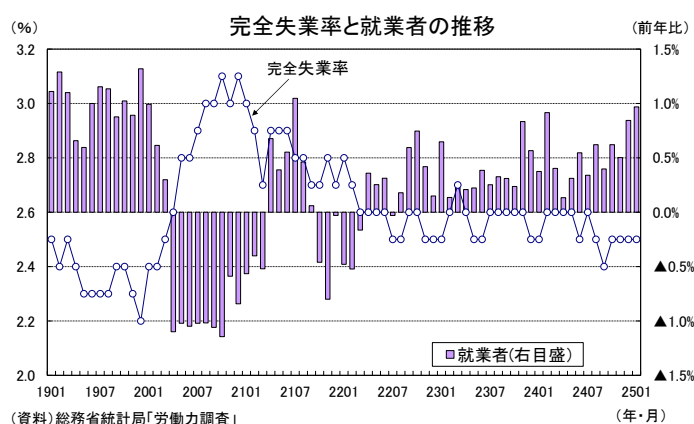
経済研究部 経済調査部長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 女性の就業者数が 6 ヶ月連続で過去最高を更新

総務省が 3 月 4 日に公表した労働力調査によると、25 年 1 月の完全失業率は前月から横ばいの 2.5%（QUICK 集計・事前予想：2.4%、当社予想も 2.4%）となった。

労働力人口が前月から 13 万人の増加となる中、就業者が前月から 13 万人増加し、失業者は前月から 2 万人増加の 172 万人（いずれも季節調整値）となった。10 月からの 4 ヶ月で労働力人口は 47 万人、就業者は 42 万人増加した。失業率は横ばい圏で推移しているが、女性を中心に労働市場への参入が進むもとで就業者の増加が続いており、前向きな評価ができる。

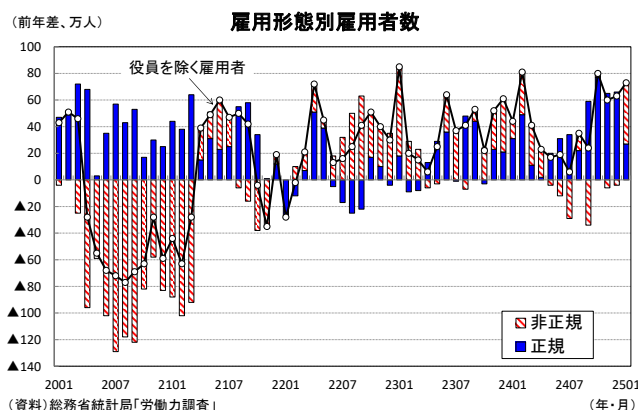
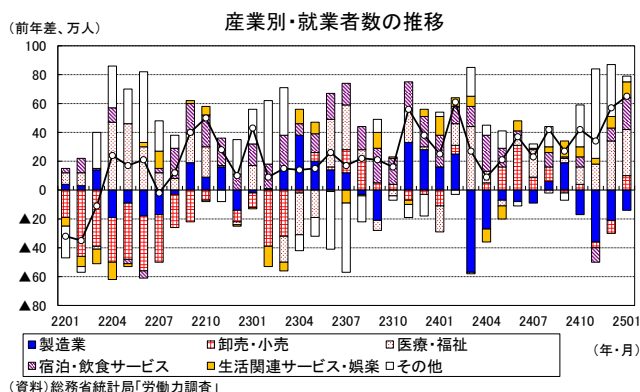


25 年 1 月分の公表と同時に過去に遡って季節調整値が改定された。失業率は 24 年 7 月が 2.7% から 2.6% へ下方修正される一方、1 月、12 月が 2.4% から 2.5% へ上方修正された。この結果、24 年中の失業率は 2.4%～2.6% の狭い範囲で推移する形となった。

就業者数は前年差 65 万人増（12 月：同 57 万人増）と 30 ヶ月連続で増加した。男女別には、男性が前年差 5 万人増と 3 ヶ月連続で増加、女性は前年差 60 万人増と 35 ヶ月連続で増加した。女性の就業者数（季節調整値）は前月から 15 万人増の 3125 万人となり、6 ヶ月連続で過去最高を更新した。

産業別には、製造業が前年差 14 万人減（12 月：同 21 万人減）と 4 ヶ月連続で減少したが、卸売・小売業が前年差 10 万人増（12 月：同 9 万人減）と 3 ヶ月ぶりに増加したほか、宿泊・飲食サービス業（12 月：前年差 9 万人増→1 月：同 22 万人増）、生活関連サービス・娯楽業（12 月：前年差 8 万人増→1 月：同 11 万人増）の増加幅が拡大した。

雇用者数（役員を除く）は前年に比べ 73 万人増（12 月：同 63 万人増）と 35 ヶ月連続で増加した。雇用形態別にみると、正規の職員・従業員数が前年差 27 万人増（12 月：66 万人増）と 15 ヶ月連続で増加、非正規の職員・従業員数が前年差 46 万人増（12 月：同 4 万人減）と 3 ヶ月ぶりに増加した。

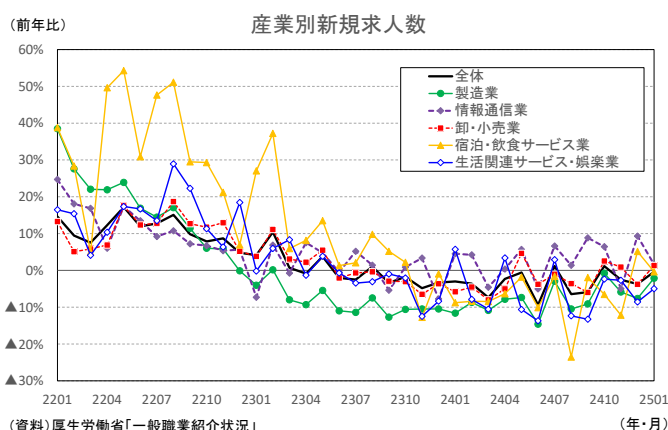
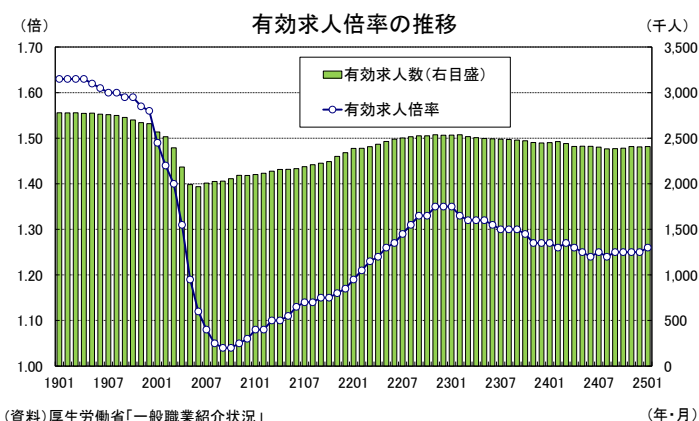


2. 有効求人倍率は横ばい圏の推移が続く

厚生労働省が3月4日に公表した一般職業紹介状況によると、25年1月の有効求人倍率は前月から0.01ポイント上昇の1.26倍（QUICK集計・事前予想：1.25倍、当社予想も1.25倍）となった。有効求人数が前月比0.2%の増加となる一方、有効求職者数が同▲0.3%の減少となった。

有効求人倍率の先行指標である新規求人倍率は前月から0.05ポイント上昇の2.32倍となった。新規求人数が前月比1.9%の増加となる一方、新規求職申込件数が同▲0.2%の減少となった。

新規求人数（原数値）は前年比▲0.4%（12月：同▲3.7%）と3ヵ月連続で減少した。産業別には、情報通信業（12月：前年比9.3%→1月：同1.6%）、卸売・小売業（12月：前年比▲3.8%→1月：同1.3%）は増加したが、宿泊・飲食サービス業（12月：前年比5.2%→1月：同▲0.4%）が減少に転じたほか、建設業（12月：前年比▲4.9%→1月：同▲0.9%）、製造業（12月：前年比▲7.6%→1月：同▲2.1%）の減少が続いた。



本資料記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と完全性を保証するものではありません。また、本資料は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。